

## 第13回 鎌倉市本庁舎等整備委員会 会議要旨

### 1 開催日時

令和5年(2023年)7月11日(火)午前10時から12時まで

### 2 開催場所

鎌倉市商工会議所会館 301 会議室

### 3 出席者等

#### 【委員】

国吉 直行 委員長

川口 和英 副委員長

関根 正人 委員(オンラインによる出席)

増井 玲子 委員

酒井 太郎 委員(欠席)

小野田 かほり 委員

西野 奈津子 委員

望月 高明 委員

森安 啓司 委員

渡辺 英昭 委員

#### 【事務局】

林 浩一(まちづくり計画部長)

渡辺 誉志広(同部次長兼市街地整備課担当課長)

石塚 智一(同部市街地整備課担当課長)

中山 秀樹(同部市街地整備課課長補佐)

若木 裕彰(同部市街地整備課庁舎整備担当主事)

太田 一心(同部市街地整備課庁舎整備担当主事)

西村 真一(同部市街地整備課庁舎整備担当事務職員)

#### 【事務局(関係職員)】

吉田 寛樹(共生共創部次長兼行政マネジメント課長兼政策創造課担当課長)

上林 裕和(総務部公的不動産活用課担当課長)

瀧澤 博(市民防災部次長兼地域のつながり課長)

末次 健治(同部次長兼総合防災課担当課長)

柳町 昌宏(同部市民課長)

中島 丈夫(教育文化財部生涯学習課長)

栗原 章郎(同部中央図書館長)

#### 【事務局(業務協力者)】

山崎 新太(株式会社日本総合研究所)

江頭 慎一郎(株式会社日本総合研究所)

齊藤 美優(株式会社日本総合研究所)

藤原 禎生(株式会社日本総合研究所)

#### 【傍聴者】

13名

#### 4 次第

- (1) 開会
- (2) 市庁舎現在地基本計画策定に向けて
  - ア 複合化の方針
  - イ 導入機能
  - ウ 施設規模
  - エ 整備手法
  - オ 市民対話・ONE DAY PLAYPARK の結果報告
  - カ 他市事例
  - キ 中間とりまとめについて
- (3) その他
- (4) 閉会

#### 5 開会

国吉委員長 ただいまから第13回鎌倉市本庁舎等整備委員会を開催する。初めに委員の出席状況について事務局から報告をお願いします。

事務局 委員の出席状況については、全10名の委員のうち9名に出席いただいている。よって、本委員会条例施行規則第3条第2項の規定のとおり委員の過半数の出席により、本委員会が成立していることを報告する。

国吉委員長 本日は議題として「市庁舎現在地基本計画策定に向けて」ということで七つほどの項目が上がっている。これらをいくつかに分けて議論、審議していきたい。

#### 6 市庁舎現在地基本計画策定に向けて

##### ア 複合化の方針 イ 導入機能 ウ 施設規模

国吉委員長 「市庁舎現在地基本計画策定に向けて」という内容に入っていく。議題について事務局から説明をお願いします。

事務局 【議題について説明】

国吉委員長 複合化の方針、導入機能、施設規模と大きく三つ説明があった。ただいまの説明について意見、質問等あればお願いしたい。

西野委員 高齢者や子育て支援、若い世代という方々の話があった。私の行っている活動の中でも障害を持っている方々がいる。小学生ぐらいの子どもであれば放課後デイサービスみたいところがあるが、成人の方などが作業所の終わった後の午後2時、3時以降に利用できるような場所というものを考えているか。

また、ファミリーサポートセンターの導入もこの場所に考えているのか。

国吉委員長 後半のファミリーサポートセンターとはどういった機能なのか。

西野委員 ファミリーサポートセンターは市民の方々がある程度講座を受けて、依頼会員の方のお子様を一般家庭で預かるという、ボランティアに近いようなシステ

ムになっている。市民同士でサポートをするというような依頼会員、支援会員というシステムで動いている。その受付機能が現在は玉縄という地区で、少し駅から離れたところにある。利用しているお母様が相談に行くのに遠いため、できれば駅前の市庁舎現在地にファミリーサポートセンターが入ると助かるという声を聞いている。その計画があるかどうかをお聞きしたい。

国吉委員長

西野委員から二つの質問があった。これらについて事務局いかがか。

事務局

一つ目の障害のあるお子様が過ごす居場所として、その一つに当てはまるのが図書館機能になるかと思われる。図書館では今は多様なニーズがあり、静かに本を読みたい方、おしゃべりをしながら過ごしたい方、車椅子で利用される方などさまざまである。詳細についてはこれから詰めていくことになるが、静かさだけが求められる図書館ではなく、会話ができる交流の場、くつろげる開放的なスペースを設けるなど、エリアを分けていきたいと考えている。どうしても走りながら騒ぐなど、元気いっぱいの子どももいる。今の図書館は少し静かにというイメージが強いので、ある程度エリアを分けることでうまく工夫をして、皆さんそれぞれが過ごしやすい場所を提供したいと考えている。実際、今の図書館でもガイドヘルパーの方と一緒に来られたり、障害のある方の利用もある。それをさらに発展させていきたいと考えている。

事務局

新庁舎の整備も現在地の検討とセットで取り組んでいる。委員の指摘のとおり、ファミリーサポートセンターの手续に課題があれば、その課題を新庁舎の整備とともに解決していければと思っている。例えば、新庁舎でオンラインによる手続ができるようになれば、現在地でも同じように設置されている端末とサポートスタッフで対応したり、ファミリーサポートセンターが今のように玉縄にあるとすると、玉縄と相談ブース、窓口とをテレビ会議でつないだりということもできるようになるかもしれない。より便利なシステムができるようになる可能性が新庁舎の整備とともにあると思う。そういったところも検討しながら先に行われる新庁舎の整備を考えていきたい。

西野委員

本当にいろいろな障害を持っている方々がいる。車椅子の可動域なども考慮していただければと思う。また、知的な部分でのサポートが必要な大人の方々の行き場所が今は本当になくなってきている。障害を持っていると言われている子どもだけでなく、成人の方々の居場所、何か活動ができるような場所、パニックを起こしても安心して過ごせるような空間を考慮していただければと思う。

国吉委員長

他の委員の方から意見、質問等あればお願いしたい。

渡辺委員

2点確認したい。

1点目は14ページの現在地における行政サービスである。この表の地域向け(地域支援機能)として自治会・町内会、地域の会合や赤い羽根募金等書かれているが、鎌倉地区に限定されているということでのよいのか。

2点目は15ページの施設規模案のところ、先ほどの説明では、ほぼ一階の窓口関係については網羅しているというような説明があったと思うが、既存施

設面積では行政センターの事務室等は 250 ㎡となっている。“ふみくら”の表では 330 ㎡ということで、防災活動拠点等が新たに入っているのだろうが、基本的には事務室スペースは広げたという理解でよいのか。

事務局 1 点目のご質問についてだが、自治会、町内会というところに関しては、鎌倉  
：地域のつながり課 地区の自治会町内会の事務局機能として進めていこうと考えている。

事務局 2 点目のご質問については、行政サービスの機能面について面積を拡充して  
いる。

増井委員 “ふみくら”というものが今回の新しいコンセプトであり、施設の名称となっ  
ている。だが、それがどこまでを指すか、ページによっては施設全体という書き  
方になっていたり、場所によっては中心部の共創スペースを一緒にした図書館  
を指していたりする。例えば、7 ページでは右側の複合化のイメージの右側を見  
るとホールなどは入っているのか。ここでは生涯学習機能に入っているかと思  
うと、15 ページでは別となっている。整理の仕方をもう少し分かりやすくして  
いただくとよいかと思う。その流れで、ABC などの記号分けでもいいのだが、  
例えば 15 ページの表と 10 ページと対比が分かるようにしていただくと理解し  
やすい。

もう 1 点、“ふみくら”の愛称はこれまでの計画の思いや目指したいものを表  
している愛称だと理解している。一方で、初めて見る人にはパッと見た時にどう  
いう施設で何が中心なのかが分かりにくいと思う。現時点では、少し固くても漢  
字を連ねた仮称のようなものをつけた方が、広くこれから計画の説明をしてい  
く際には分かりやすいのではないかと思う。本日の資料でも、例えば tette は  
「須賀川市民交流センター」とついていたたり、シリウスという大和市の図書館を  
中心とした施設も「大和市文化創造拠点」という名称になっていたりする。また、  
そうすることで市が整備するのも分かる。以前この整備の話の時に民間への  
土地の売却等という事業手法の案もあった流れから考えると、誰が、どのよう  
に、何を中心に整備しようとしているのかをイメージしやすい言葉で表した方  
が良いかと思う。

国吉委員長 “ふみくら”のイメージが全面に出ているが、資料によっては少し分かりにく  
い、どのあたりまでを“ふみくら”と称するのかということが最初の質問であっ  
た。

また、事業主体も含めてどういう事業手法のイメージか、公共がやるのかどう  
か、まだイメージがわからないので、現段階での名称の付け方については工夫す  
るという手もあるのではないかというアドバイスのことの 2 点であった。事  
務局いかがか。

事務局 3 ページにも書いてあるとおり、基本的には情報が溢れる図書館を中心とし  
た施設を考えている。図書館を中心に、手続や相談、防災も支える、学びあい、  
交流しあえる拠点とすることを前提として、全体のビジョンとして“ふみくら”

を位置付けている。

2点目については、今後検討していくが、アドバイスを参考にさせていただきたい。

国吉委員長

“ふみくら”として強く主張する部分とサブ的な部分と、全体を曖昧にするとかえって分かりにくいのではないかというアドバイスであったと思う。例えば、当面は新しい図書館機能を中心として、市民の創造とか交流を高める施設ということで、「仮称ふみくら」というような打ち出し方もあるのではないかという話であった。参考にして検討いただきたい。

他の委員はいかがか。

川口副委員長

まずは、行政サービスはしっかり確保した状態で市民交流、コミュニティ的なものが非常に重要な要素として説明されていたかと思う。先ほどから規模の話もあったが、面積を拝見すると明らかに最大規模が図書館のエリアで2,800㎡、ここに28万冊程の蔵書が入った上で、いろいろな機能が調和することになる。結構盛り沢山と言ったら失礼だが、いろいろな機能に応え、なおかつ、平常時と災害時にも対応しようということであるので、そこをどのようにつくっていくのかが今後の課題かと思う。10ページの真ん中の図が、まだこれはゾーン分けのものではないという説明であったが、例えば共用部のところがなくなっているのでどのように処理されるのかイメージが沸かない。例えばお子さんなどが少し騒いでも楽しく来られるような、家族で来られるような場所はこれからとても大事になる。そういうスペースがありながら、すでに中央図書館が持っているいろいろな本、アカデミックなものなどは少し静音性を要求するものといったようにゾーン分けも必要かと思う。また、先ほど伝統音楽の話もあったが、それをどのように処理していくのかはこれからの課題かと思う。

一方で、防災の話になると今ここが標高8m程かと思うが、南海トラフの話があった時に低層階のものをどういう機能で処理するのか、かなりいろいろなものをここで展開させようとしているので、どのように検討されているのか伺いたい。

事務局

まず、10ページはあくまでイメージとして、通常の施設だと廊下があり、部屋があるというものを一番左に書いている。“ふみくら”の複合化のイメージということで中央の部分に示した。廊下などが見当たらないということだが、できるだけルームというよりは、複合しやすい、融合しやすい、交わりやすい、冒頭にも説明した情報などと人が交流してはじめていろいろなものを生み出していくということを言葉や絵にしたようなものがイメージになっている。最終的には配置図として表すが、イメージとすると従来の施設できっちり分けているよりも、ボーダレスとあって、あまり区切るようなものではなく、少し緩やかな感じで交わりやすい施設にしていきたいと考えている。

一番右の災害時の絵になるが、有事の際は、その時の状況に応じてしっかり変化できるということを踏まえると、平日頃から皆さんが交わるようにしてお

くと有事の際も変化しやすい、変化できるということで現状考えている。

国吉委員長

ボードレスとしつつ、新しい施設として組み合わせを考え、新しい価値を生み出す、そういったことを狙っているのではないかと思う。全く壁がないというわけではなく、音が出そうな部分はこちらのゾーンとか、図書館のある一部とコミュニティ施設とを組み合わせるとこういうことができるというように、可能性を探りながら新しいゾーニングをしていこうという狙いがみえる。それがまた期待感になるのではないか。今はすべてははっきり答えられないところもあるかもしれないが、新しい施設の狙いの良さみたいなものもわかるように、新しい価値を生み出すための工夫、防災の時にどのように対応できるかという狙いを、きちんと市民の方に理解いただけるようにまとめていただきたい。

小野田委員

皆さんが気になっているところとして行政サービスの提供の方法があるかと思う。13 ページに窓口スペース、個室ブース、手続スペースと三つに大きく分けるという説明がある。現状どの程度の相談があるのかわからないが、窓口での相談などは込み入った話で、しっかり話をしたいということを考えると、5席というのは感覚的には少し少ないような感じがする。ゾーンを少し分けることができるという話であれば、運用の仕方によってフレキシブルに数を変えていけるような仕組みを考えていただくことはできないか。

事務局

ご指摘のとおり現状窓口スペースが5席、個室のブースも5席という形で書いている。この数字がどれだけ妥当性があるかはなかなか難しいというのが本音である。利用開始時のオンライン化の進捗状況や相談件数の状況を見ながら、資料のAとBをうまく組み合わせ、例えば対面での相談が多ければその時は相談の席数を増やしていくなど、時間帯や曜日、季節によっても変動があるだろうと想定しているため、席数をうまく増減させていくなどして、サービスの質を低下させないように対応していきたい。

国吉委員長

このあたりで次の議題に移る。

市庁舎現在地基本計画策定に向けて

#### エ 整備手法 オ 市民対話・ONE DAY PLAYPARK の報告 カ 他市事例

国吉委員長

整備手法、市民対話・ONE DAY PLAYPARK の結果報告、他市事例について事務局から説明をお願いします。

事務局

【議題について説明】

国吉委員長

整備手法、市民対話・ONE DAY PLAYPARK の結果報告、他市事例と大きく3点について説明があった。ただいまの説明について意見、質問等あればお願いしたい。

渡辺委員

7ページの“ふみくら”を構成するスペースのイメージで、書架、閲覧席、ボランティアスペース、ホール・ギャラリー等々、場を分割するのではなく、全体として一つの“ふみくら”とするということであれば、既存施設にブレースを入れて持たせるという考え方は出てこないと思う。既存施設を使う場合、場を分割

するというのではなく一体的に使うことは可能なのか。

事務局

既存施設についてはご指摘のとおりブレース等が入り、間仕切りというものが出てくるかと思う。一方、私どもが目指している“ふみくら”は、ルームというよりエリアという考え方で、できるだけ融合を図りたいということがある。ご意見のとおり、既存施設の改修については、少なくとも耐震補強の部分で少し難しい部分があると考えている。

国吉委員長

おそらく基本的には既存施設の改修では相当使いにくくなるだろう。既存施設の改修利用も可能ではあるが、施設の新しい利用を考えると難しい面が多いというところだと思う。専門家の森安委員はいかがか。

森安委員

1点目として18ページの耐震性についてIs値、耐震性をどこまで上げるかという話が出てきたかと思う。後半の方でIs値は市役所や消防本部機能が入るわけではないため0.75という数字があるが、基本的には市民を守るという観点からすると0.9は押さえなければいけない数値になる。

もう1点、先ほど渡辺委員からもあったように、複合化というものに対して、今はイメージでとらえている部分が非常に強いと思う。ここについては、いろいろな具体的なアイデア等で越えられる部分もあるのではないかという、かすかな期待はある。建物を設計する立場としては現庁舎の建物を複合化を主として使うということは難しいと考えているが、使われ方等は今後様変わりしてくるので、そういった部分で考えればいいというのが一つある。もう一つは、建物の可変性、使い方を変えていくということに関して、どこまで追従できるのか考えていただきたい。

別の話として、現庁舎の建物は築50年程経っている。前提として新築時に何年使おうと思って建てたのか、当時の性能は50年前の検査値の性能なので、それが50年経過し、これからどれだけ持たせることができるのか、数字できちんと表すことによって判断材料になる。そこはしっかり明らかにしていただきたい。

また耐震改修して使うとなったとき、耐震改修をして今の現庁舎をどのくらいの期間使うのか。ここから50年使うためのお金を投入するのか、あと100年使いたいのかというところもきちんと議論の対象にしていかなければ、今の建物の耐震改修をして有効に使っていけるかという判断材料は出てこない。そのためには数字で出していただき、判断をしてもらえればいいのかと思う。

現庁舎の話をしたが、これが仮に新しい建物を建てて行政サービスと、いわゆるコミュニティを一体化、融合させながら改変して使っていく建物を造ろうと言った時に、その建物は現時点の設計で何年使うつもりなのかしっかり考えていただきたい。それをテーマとして掲げた上で計画を立てていくことが、新しくものを建てる場合には必ず必要になってくる。そのあたりのところは気を付けていただきたい。

国吉委員長

専門家としての立場からの意見は大変貴重である。他に、現在の建物の高さな

ど一部既存不適格になっているものを改修して整備するときは、既存不適格部分を解消しなければならないのか、森安委員からの助言の何年くらい使うのかななども含めて総合的な判断ができるような材料をまとめていただきたい。

望月委員

少し前の方に戻って9ページの導入機能のところと、15ページの施設規模案について質問をさせていただきたい。“ふみくら”というイメージのもとに新しい施設がつくられるが、例えば中央図書館、生涯学習機能、NPOセンターなど既存の行政施設が一か所に集まる。その“ふみくら”というイメージが、逆に図書館や生涯学習センター、NPOセンターの既存の行政の部署にうまく浸透しているのか。ただ単に大きな場所に今まで分かれていたものが集まっただけでは多分イメージが沸かないと思う。それぞれの事務所を新しい“ふみくら”の広いスペースの中に点々と分けてしまっただけでは意味がない。今考えられているプランが元に戻った時に、それぞれの中央図書館や生涯学習センター、NPOセンターがどのようなイメージを持って共有しているのかが気になる。

国吉委員長

質問であり、また一部提言を含めた意見であったかと思う。この点はまだ検討中のこともあると思うが、事務局で答えられる内容があればお願いしたい。

事務局

今日も関係各課の者が参加しており、庁内で横断的に検討を進めている。今後もそのような形で検討を深めていきたいと思っている。単純な施設の寄せ集めになり、連携がうまくいかないとならないように、運営の仕方についてはこれからの検討になっていくが、しっかりやってほしいという助言と捉えて検討していきたい。

国吉委員長

そのあたりは他の委員も共通のイメージ、期待を持っているかと思うのでよろしくお願いしたい。オンラインで参加の関根委員はいかがか。

関根委員

10ページで平常時の“ふみくら”の使い方と災害時の使い方という説明があり、このアイデアはとてもいいと思った。資料の図のイメージのように大きなスペースをつくるのだと思っていた。現有スペースを耐震補強した上でこのアイデアを持ち込むということは相当難しいと思っている。今の段階はアイデアということだと思うが、建物を建て替えるのか、補修するのかということに応じて、このアイデアの部分はがらっと変わってしまう。今の段階では、10ページについては、単にこういうアイデアを持っているという提案を受けたと理解すればよいのかということが一点。

もう一つは私は防災面でいろいろ意見を申し上げさせていただいているので、その立場で申し上げる時に、平常時の使い方についてはかなりアイデアを持っているように思っている。災害時にここをどのように使おうとするのか、どういう職員の配置の仕方をするのか、職員の中でも防災担当の職員の方をどのくらい平常時から置いているのかなど具体的なイメージをどの程度持っているのか。これから検討するのであれば、そういうイメージをもっていないと、図書館機能から災害対応に変えようとしたときに相当いろいろなものに影響が出る。災害時にここを変えるとんでもあらかじめ考えておかなければ現実にはなら



ないと思う。そのあたりの準備もぜひしっかりとしておいていただきたい。

また、今の建物をそのまま使おうとした時に、17 ページに1階スペースに図書館と書いてあった。災害で避難されてきた方のスペース、あるいは本を置いておくスペースというものを、どの程度地表面から少しでも高いところに持っていけるかということが大事だと思う。既存の施設に合わせて“ふみくら”のスペースをとるのは難しいと個人的には思っている。

国吉委員長

防災の専門家の関根先生からの指摘で、はたして災害時の“ふみくら”という10ページのイメージが単なるアイデアなのか、これをやるのであれば施設の作り方は変わるのではないかという意見であった。既存の建物を活用というのと全部改築というのが同等でむしろ改築の方が有利というようにも見えるというような、そのあたりのウエイト付けが災害時の使い方を考慮した位置付けになっているのかどうか曖昧なので不安になってきたというような話であった。先ほどの建築的な視点からのまとめ方、森安委員からの助言も踏まえ、まず改修活用というのは残してもいいがそれぞれのメリットとデメリットのようなものをきちんと書き、改修によって事業をする場合は、相当リスクがあるということは踏まえた上で踏み込むという話になると全体的に感じた。そのあたりが市民の方にとっても理解いただけるような整理の仕方をされた方が良いと思う。渡辺委員も曖昧にしてあると不安だということで、これでいいのかどうかと、逆に疑問に思われたのかと思う。それぞれの特徴をきちんと書いて出してほしい。例えば、災害時に屋上とか上層階をどのように使うのか、そこをいつでも上がれるようなスペースにしておくなど、階下に避難することも必要であるし、ルーフトラスのようなところに災害機器とセットで簡単なテントが出せるようなスペースとするなど、そういった機能なども当然あって然るべきではないかと思う。そのあたりのことも考えたイメージ作りを、もう少し建築的なところでされた方がよい、次回まとめていく際はそういった方向にしてほしい。

西野委員

耐荷重の問題などもお聞きすると、現庁舎は50年以上も経っている、私が生まれた頃に建っているものなので、それを今後も使っていくことは難しいのではないかという漠然としたイメージがある。ブレースを入れたりということイメージすると、先ほどいろいろな委員の方がおっしゃっていたように使いにくいというイメージと、50年先を考えたときにでもこれを残す必要があるのかということが私にはわからない。ただ、今この建物に親しみを持っている市民がいることも確かなので、そういった方々に理解していただける根拠が必要だと思っている。

もう一点、中央図書館の機能をここに入れることが本当に可能なのかという素朴な疑問がある。私も武蔵野プレイスに一度だけ視察に行ったが、図書館というものに特化した高い建物ですごく素晴らしい施設であった。今までのいろいろな施設に視察に行かれた資料を拝見すると、中央図書館に変わるような施設というものを50年先も使えるものといった時に、この風致地区の場所で埋蔵文

化財も出る可能性がある、そして津波の可能性もあるこの場所以外で、鎌倉駅前以外の場所で図書館機能というところが考えられないか。例えば、新庁舎を整備する深沢地区の場所に素晴らしい図書館機能、中央図書館に今のものに勝するような建物ができるのかどうか、お金の部分もあると思うが、そのあたりも考えているのかお聞きしたい。

あと一点、市民の方からの意見の中で、今鎌倉市が考えている市が図書館を直営で運営するという意見をこのまま守っていただきたいということはいろいろな方々からの声としてお伝えさせていただく。

事務局

昨年9月に策定した現庁舎の基本構想で、中央図書館を今の市役所の場所と決めさせていただいた。現時点ではその考えでやっているため、他の場所で最適な場所があるか否かの検討を市では行っていない。市庁舎現在地で“ふみくら”のイメージに沿う図書館、複合施設のような立派な図書館を整備していく方針でこの検討を進めているところである。

また、深沢地区には新庁舎と深沢図書館という組み合わせの中で検討している。新庁舎の中に中央図書館ということは検討していない。

国吉委員長

現庁舎のあとにどういうものをつくるか、いろいろな意見を市民対話などを通していただいてきた中で、図書館機能を軸とした新しいコミュニティ形成型の施設をつくっていかうということで“ふみくら”という名称になってきた。そのあたりを変更すると、ここまでまとまってきたものが大変なことになってしまうと思う。本委員会としてはその流れを活かしていきたい。

西野委員

まだ時間がある、もう一度柔軟に考えられるのではないかと期待がある。

国吉委員長

具体的に現在のものを核としながら、工夫したらもっとよくなるという点があれば指摘をいただければと思う。

増井委員

二点お話したい。

一つはこの課題の中に浸水の可能性が入っていないが、検討しなくていいのかということが気になっている。そもそも市庁舎移転を考えた際の大きな課題の一つであった。例えば東日本大震災後に東北などに新たに建てられた建物を見ると1階は津波が多少でも来ることを想定して大事なものは置かず、2階以上に機能的なものを置くという建て方をしている大型施設もある。ある程度浸水被害の可能性を考え、主要な機能は2階以上に上げていくとなると、総面積自体は新築であろうと改修であろうと増えてしまうかと思う。少なくとも整備していくときの主要な課題の一つではないか。

もう1点は屋外の活用についてである。ONE DAY PLAYPARKに私も少し顔を出させていただいたが、市役所の駐車場に遊び場やブースを出されていて、市民の方たちが楽しんでいる姿を見た。屋外の機能や展開の可能性はたくさんあると思うし、あの立地はさまざまな活用に期待が持てる場所であるので、平常時という言い方になるが、特色ある遊び場なりイベントスペース、くつろぎスペースというものを、建物を考えた後に考えるのではなく、今から積極的に検討していっ

- たらどうか。もちろん災害時の使い方というのも同時に検討すべきかと思う。
- 国吉委員長 最初の指摘は非常に重要なことで、災害時の対応と建物の床の配置、1階に重要な機能をもってくるべきではない、あるいは水への対応の措置が新たな手法としてあるのかということ。大きな壁で囲ってそこにいかないようにするなど、そういったことも含めて災害時の対応に耐えられる新しい施設づくりをどのように考えているのかということであった。そこについて事務局お願いしたい。
- 事務局 浸水想定については敷地の一部に入ってくる想定があり、当然リスク管理ということを考えながら引き続き検討していきたい。
- 事務局 ONE DAY PLAYPARKは当日たくさんの方々を楽しんでいる姿を拝見し、私どももいろいろな思いを感じられることができた1日だった。基本構想を策定した際に、市庁舎現在地を構成するスペースの中に、憩い用の屋内外スペースというものを入れている。屋内外でまちとつながり、まちの移動を支えるオープンスペース、まちなかの緑と憩いの空間という形で記載させていただいている重要な要素の一つと捉えている。単純に残ったスペースで広場をつくっていくということではなく、きちんと建物との連携、連動性というものを意識しながら設計、配置を考えていきたいと思っている。
- 国吉委員長 増井委員の最初の指摘について、東北の大震災なども経て新しい庁舎づくりに対して高台だけではなく低地においても低層部をどのようにするのか、全部ピロティにするのかといったことも含めた工夫は相当出ていると思う。そういったものも含めて、事例として出しながらイメージを出していただけると市民の皆さんも安心していただけるかと思う。建築的な工夫、水害対応をどのように考えていこうとしているかは非常に重要な要素なので、早めにアピールできるようにまとめていただきたい。
- 関根委員 先ほど私が発言させていただいた件もこれに関わることになる。そもそも現在地から市庁舎を動かそうという原因の一つは津波であった。そういう状況下で現庁舎の1階を使って、先ほどの非常に大きなスペースのようなものをつくるのは相当難しいだろうと思う。あるいはつくったとして、本が水に濡れないまでも、湿気を帯びるといことはやはりよくないと思う。
- もう一つは避難されてきた方が、もしかするとここに避難してきてもまた水が来るかもしれないと思いながら過ごされるということはあるのではないと思う。そのため、先ほどのイメージ図は現庁舎を新たに建て替え、委員長がおっしゃるようにピロティのような形にするのか、盛土の上に乗せるのか、何らかの対策を講じた上で展開するものと理解していたが、本日の委員会での話を聞いていると今の建物を耐震補強して、そのまま1階に入れるという可能性が残されていると理解できなくもない。これは少し心配である。相談いただければ知恵は出すので改めて今後検討いただきたい。
- 事務局 今回の関根委員の意見は非常に重要なところで、今後引き続き意見をいただきたい。今回の関根委員の意見だけでなく本日は委員の皆様からいろいろな意見を

いただいた。渡辺委員からは一体的にとっている中でこんなにブレースを入れるのはどうなのか、森安委員からも 0.75 としている Is 値は 0.9 を求めていくべきではないか、実は我々も図面上で緑線を 0.9 の場合として書かせていただき、0.75 だと緑の部分の半分ぐらいになるという説明をさせていただいた。本日資料として出させていただき、意見をたくさんいただいて、今後の検討に向けて有意義な時間をいただいていると強く思っている。

前半で今日皆様にお示しさせていただいた導入機能やその規模では、この現在地を利活用していく時のありたい姿、あるべき姿をお示しさせていただいた。後半では全国的な事例を紹介させていただいた。先ほど西野委員からもあった武蔵野プレイスのことも出させていただいた。そのような中で、現状はどういうことになっているのかということの本日の資料では 19 ページに書いてあるが、課題を整理し検討を進めていくと、ここが非常に大事なところになる。将来的な整備を誰がどういう形で進めていくのか、森安委員からのアイデアで使い方もあるだろうという意見もいただいた。そういったことも見据えながら整備の手法をどうしていくべきか、そこには関根委員からの意見も含めて、今後示していきたいと思っている。

また、西野委員からいただいた意見について、平成 29 年度に公的不動産の利活用推進方針を検討してきた。この中で、現在地については中央図書館と生涯学習センターなどを現在地に集約して、市民サービスの提供、公共施設の再編、民間企業の導入などをしていこうということを行政計画として決めた。その時に本庁舎機能の部分については深沢に移転して整備するというのを平成 30 年 3 月に決定し、行政計画として平成 30 年 5 月に広報かまぐらの一面にさせていただいた。その後いろいろな動きはあるが、行政としてはそういった形で基本計画を進めている。ただ、“ふみくら”というビジョンのこの現在地の整備にあたってはまだ 10 年ぐらい時間がある。これまでの 50 年とこれからの 10 年の変化のスピードというのはいろいろあると思うので、その時に何が必要なのかということを見据えながら引き続き検討を進めていきたいと思っている。

川口副委員長

床耐荷重のあたりで、現況の建物だと 300 kg/m<sup>2</sup>の耐荷重で図書館機能はこれでは足りないということで 3 段程度だと 2,800 m<sup>2</sup>相当が 2 倍に跳ね上がるので、これが大丈夫なのかという気がする。最初にこの資料を拝見した時に、現況の建物の耐震補強というのはレイアウト自体も非常に限定されていて、今の説明を受けるとますます図書館機能を乗せるには厳しいだろうということで、この耐震補強自体が疑問に思った。もちろん現況のものを使うとなると有効活用になるが、50 年経っているものをさらに持たせるということであるので、かえって高くつく部分もあるのではないかと思う。それから、例えばコアスペース、トイレや階段位置などは今後変えるのかもしれないが、さらに検討するとより狭められるということだと思う。図書館の書架を入れた場合、本は重たいが、お子さんが見るような絵本みたいなものは軽いので、のびのびとしたスペースで展開

できて、もう少し重要な本や重たい本はむしろ集密書架みたいところで梁にかかるようなところに集約して、普段は閉架式にしておき、閉架式と開架式を併用することなども考えていただいた方がよい。重さがかかるということで、風致地区がかかっているのもどれだけ高さを上げていいのかなど検討事項があるが、部分的に盛土をやるなど、一階部分をピロティにしてしまうのか、周密書架を配置するのかなど、そのあたりもパターンをこれから考えていただき、機能がバランスよく入り、なおかつ非常時の機能が両立するようなものを考えていただく必要があると思う。私は直感的に皆さんの意見と近いが、現況のものを補強して再利用するというのは非常に難しいというか、しぼりが大きいと思う。水没の問題、耐震の問題、本の荷重の問題、いろいろな面を含めるとどれが一番コストパフォーマンス的に良いのか検討して採用していく必要がある。

国吉委員長

“ふみくら”のイメージをどうやってつくっていくのかという議論と、施設としてどういうものにしていくかという建築的なつくり方について議論があった。その中でやはり災害時に安心して過ごせる新しい公共施設ということは、メインに打ち出していかなければいけないということが各委員からの共通した意見だと思う。そのあたりを重視し、疑問が沸かないような提案をすべきだと思うので、次回そのあたりの整理をしていただきたい。

西野委員

私も行ったことはないのだが、今月開館された多摩の新しい図書館がある。そこは何回も話し合われた上で、当初計画していた場所ではないところに建てるなど柔軟な対応をした施設があるそうで、見学に行った方々からはとても素晴らしいという意見もあった。視察に行かれてみてはいかがかと思っている。

渡辺委員

市役所の位置を定める条例の関係について1点要望がある。市庁舎現在地の整備が可能になるには、言うまでもなく、市役所の位置を定める条例が可決され、深沢に移ったあとということとは当然だが、昨年の12月の定例会で残念ながら否決された。今年の6月議会に再度上程するのかと思って見ていたが、この間、市役所の移転等に対する市民の理解を得るために、先ほど話があったワークショップやONE DAY PLAYPARKなどを行ってきた。多分に政治的要素が強いとはいえ、やはり市民の方がこの条例の行方に関心を持っている。この事業の成否がかかっているので余計である。事務局としてなかなか答えにくい、説明しづらいという状況はよくわかる。とはいえ、何がネックになって反対となって進まないのかということなど整備委員会だから整備だけの話をということではなく、その元になっている背景の部分についてもできる限り情報として出していただきたいということを要望する。

国吉委員長

本庁舎の移転と市庁舎現在地の整備ということはセットである。渡辺委員のおっしゃるとおりで、そのあたりについて議会等での課題はあるかと思うが、今後どのように展開していくのか市民の方に伝わってこないのはまずいということだと思う。できる限りそういったことはイメージがわかるように発信してもらいたい。

市庁舎現在地基本計画策定に向けて

キ 中間とりまとめについて

国吉委員長 中間とりまとめについて、事務局から説明をお願いする。

事務局 【中間とりまとめについて説明】

国吉委員長 本日の指摘等あった内容を含め、防災についての視点をどこかに触れておくことが必要かと思う。そのあたりはぜひ検討をお願いしたい。以上でよろしいか。

以上で本日の議題はすべて終了させていただく。その他事務局から連絡事項をお願いしたい。

7 その他、閉会

事務局 今後のスケジュールについてだが、先ほど説明した中間取りまとめについて8月上旬に本委員会を書面にて開催させていただく予定である。なお、次回の対面での委員会については10月頃の開催を予定している。詳細な日程等については改めて調整、連絡をさせていただくのでよろしくをお願いしたい。

国吉委員長 以上で第13回本庁舎等整備委員会を閉会する。

以上